# 河合塾エンリッチ講座

# 多彩なイベント、文化行事。好奇心は、創造力の源です。

君たちは何故大学をめざしているのですか？　大学では何をしますか？　河合塾では、勉強をアシストするだけではなく、もっと視野を拡げ、現代社会の様々な領域の“知”と出会えるよう、知的好奇心を刺激するための多彩なイベント・文化行事を開催しています。それぞれの場面で何を考えるか？　河合塾は君たちが新たな自己と対面することを期待し、君たち自身が進む道の探求を、応援していきます。

## 1991年度 エンリッチ講座プログラム（4月1日現在の予定表）

**●時事問題**

二木啓孝（日刊ゲンダイ記者）　激動の90年代と日本
板垣雄三（東大東洋文化研究所教授）　湾岸戦争と国際正義

**●最先端の研究**

高木　繁（名工大講師）　化学と医学の境界
海部宣男（東大東京天文台助教授）　電波望遠鏡をつくる
寺島一郎（東大助手）　生物―植物

**●現代思想**

市川　浩（明大教授）　ことば・からだ・こころ
小林敏明（河合塾講師）　現代思想人門

**●文　学**

黒古一夫（河合塾講師）　現代文学を読む

**●環境問題**

加藤龍夫（横浜国大教授）　農薬の環境破壊
岩崎雅典（映画制作者）　「イヌワシ・風の砦」を撮って

**●勝　負**

小林　至（プロ野球練習生）　日本で一番有名な東大生

**●歴　史**

森　浩一（同志社大教授）　吉野ヶ里と魏志倭人伝

**●教　育**

宮田光雄（東北大教授）　教育を語る

**●文　化**

大須賀勇（白虎社主宰）　異文化交流への道
芦川進一（河合塾講師）＋中西光雄（河合塾講師）　シルヴァスタインの『おおきな木』を読んで考える
海勢頭豊（沖縄・演奏家）　ヤポネシアの視点から文化と国家を考える

**●ビッグ・イベント**　坂田　明 Jazzコンサート　7月13日

都合によりプログラムが変更になることがあります。
なお、日時・場所については後日告知します。

# 河合塾エンリッチ講座

# 多彩なイベント、文化行事。好奇心は、創造力の源です。

君たちは何故大学をめざしますか？　大学では何をしますか？　河合塾では、勉強のみをアシストするだけではなく、もっと外に枠を拡げ、現代社会の様々な領域の“知”と出会えるよう、多彩なイベント・文化行事を開催しています。それぞれの場面で、君たちが何に出会い、何を考えるのか？　河合塾は君たちの新たな自己との対面を期待し、君たち自身の道の探求を、陰ながら応援していきます。

**第Ⅲターム　8月4日㈯　「温度で決まる雄と雌」**

徳永章二 先生（九大医学部助手）　横浜校　17:15～
司会　田部講師（生物料）

**8月10日㈮ I・DO夏まつり**　千駄谷校

**「受験生に告ぐ！　今すぐ“傾向と対策”を捨てなさい」**
――ノウハウだけじゃ世間は渡れない　脱肩書き“教”時代宣言――

映画 **「ニッポン無責任時代」**――クレイジーキャッツ主演――　10:30～12:00

ライブ・トーク **「芸のない、大学生になんでなる」**　14:00～16:00
出演　高見　映（NHK教育テレビ「できるかな」のノッポさん）　岡崎京子（出演交渉中）他
司会　立川講師（国語料）

ディスコ・パーティ **「芸とは何ぞや　踊って考えよう」**
DJ　ファンキーエイリアン　18:00～20:00

**第Ⅳターム　8月13日㈪「ターフからの贈りもの」**

佐藤洋一郎 先生（サンケイスポーツ新聞記者）　千駄谷校　17:30～
司会　権田講師（地理料）

**第Ⅳターム　8月15日㈬「最先端企業の現場から」**――技術革新を支える材料技術――

堤　孝義 先生（元河合塾化学科講師）　駒場校　17:30～
司会　化学科講師

**第Ⅳターム　8月16日㈭** コンサート **「THE 真心ブラザーズ」**

立川校　18:00～

1991
東京・河合塾

# 第13回・四谷区分会場

開場　15:30

★第一部　全頭クイズ模試
16:15〜17:45
出題範囲―戦後篇
設問形式―直感マーク式
難易度―やや◎

★第二部　コンサート
18:00〜19:30

# 坂田明―MITOCHONDRIA

黒田京子＋三田超人＋藤井　裕
古澤良治郎＋酒井泰三

# JAZZコンサート&全頭クイズ模試

河合塾講師による
出題・解答・解説!!

91エンリッチ講座⑭

# 新人類とオタクの世紀末

## 高度消費社会とリアリティの変容

一つの時代が終わったという実感とともに、時代はますます不透明感を増していく。世紀末の消費社会は捕らえどころがなく、特に若者たちは多様化の様相を深めている。「感性の時代」と言われた80年代の裏側で何が起こっていたのか。ここでは少女マンガというメディアを手引きに若者の感性の展開を見ていくことで、「金ピカの80年代」の深層で静かに形成されてきた相互コミュニケーションの断絶と「変則的リアリティ」の深層に迫っていく。

**宮台真司**（みやだい・しんじ）
社会学博士。東京外国語大学講師。
一九五九年うまれ
一九八七年東京大学大学院博士課程修了
一九八四～八七年ライズコーポレーション（株）取締役
一九八七～九〇年東京大学教養学部助手
博士論文は『権力の予期理論』（勁草書房）
行為論・役割論・法理論・社会システム論・消費論など多数

▼講師＝**宮台真司**（社会学博士・東京外国語大学講師）
▼司会＝**樫田美雄**（小論文科講師）

**10月16日(水)18：40～ 松戸校3G教室**

91エンリッチ講座⑫

# からだいろいろことば

講師＝竹内敏晴（南山短期大学人間関係科教授）

司会＝菅　孝行（小論文科）

◆怒りを現す言葉といえば、戦前は「腹が立つ」が主流だった。戦後の主流は「アタマニクル」「トサカニクル」に変わった。ここには我慢する〈からだ〉から、感情を発散させる〈からだ〉への変化の反映が読み取れる。30年を経て、新しい変化が起きた。若者は「ムカツク」を連発するようになったのだ。

それは吐き出すことのできない不快な状態を感じ続けている若者達がたくさんいるということだろう。何故そうなったのか、「むかつく」若者の〈からだ〉は何処へ行くのか？

◆夜毎に飛び起きワーッと大声を挙げて庭に駆け出す、止めようとしてもドウニモトマラナイ、そういう女の子がいたという。それは今までの生きかたでこの家に暮らすことはもうできない、という〈からだ〉のシグナルだった。

◆〈からだ〉はただの肉体ではない。〈からだ〉は〈こころ〉の在りか、〈ことば〉を発し、〈ことば〉を受け止める主体である。勿論、意志が〈からだ〉を操作し制御するという一面があるのは事実だ。だが〈からだ〉をコントロールしている意志の働きは何を仲立ちにしているだろう。〈からだ〉の働きに媒介されない意志・心・精神など存在しえない。

◆「手を出す」という時、手＝〈からだ〉は客体だ。「手が出る」という時〈からだ〉は主体である。〈からだ〉はときに主体であり、ときに客体であり、同時に両方であり、からだが私だ。私は〈からだ〉としてここに立ち〈からだ〉として世界の内に存在している。〈からだ〉として他者に働きかけ〈からだ〉として他者を受け止める。

◆日頃あまりにもあたりまえで、それについて考えたこともない〈からだ〉・〈こころ〉・〈ことば〉の仕組みについて考えて見よう。新しい自己、新しい関係、新しい世界がひらけて来るかも知れない。

**10月9日㈬　17：30～　池袋本校7F教室**（ツチキンビル）

## 身も心も

身体は
心と一緒なので
心のゆくところについてゆく。
心が　愛する人にゆくとき
身体も　愛する人にゆく。
身も心も。
清い心にはげまされ
身体が　初めての愛のしぐさに
みちびかれたとき
心が　すべをもはや知らないのを
身体は驚きをもってみた。
おずおずとした　ためらいを脱ぎ
身体が強く強くなるのを
心は仰いだ　しもべのように。
強い身体が　心をはげまし
愛のしぐさをくりかえすとき
心がおくれ　ためらうのを
身体は驚きをもってみた。
心は
身体と一緒なので
身体のゆくところについてゆく。

（吉野弘詩集より）

### ◆竹内敏晴（たけうち・としはる）

一九二五年、東京生まれ。東京大学文学部卒業。演出家として劇団ぶどうの会、代々木小劇場ほかで活動。一九七二年、竹内演劇研究所を主宰開設。「からだ」の問題にとりくむ。宮城教育大学教授などを経て、現在、南山短期大学人間関係科教授。

＝著書＝

「ことばが劈かれるとき」―思想の科学社・ちくま文庫、「からだが語ることば」「ドラマとしての授業」―評論社、「時満ちくれば」―筑摩書房、「からだ・演劇・教育」―岩波新書―「「からだ」と「ことば」のレッスン」―講談社現代新書―など

91エンリッチ講座⑨

# 鶴見川そして多摩丘陵

●地球環境が危ない。オゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨、熱帯林破壊、表土喪失、そして厳しい人口圧や原発問題等々。マスメディアや学校の熱心な宣伝で、いまや小学生さえ要点は知っている。しかし国民的な学習熱にもかかわらず未来の見通しは明るくない。我が文明はまもなく地球の限界に衝突すると予感しながら、なぜ私たちは、脱地球の方向に暴走する世紀末の産業文明にますます強く翻弄されてゆくのだろうか。その大きな原因の一つは、地球暮らしに相応しい〈心の地図〉を、そもそも私たちがほとんど持ちあわせていないことだと、私は考える。〈地球と平和に暮らす〉と絶叫しても、地球と私（たち）を繋ぐ地図がないのだから、どこへ行って何をすべきかわからず、恐怖ばかりが募ってしまう。半ばスペースシップのような都市になってしまっている東京でそんな地図を作ること自体、そもそも無理な注文かもしれないのだ。しかし、だからこそ地球に暮らすに相応しい自前の地図を東京首都圏で工夫しなければならない。

今回のたたき台は〈危機の都市河川・鶴見川、そして関東山地と太平洋を繋いで首都圏を縦断する緑の回廊・多摩丘陵〉に注目する私の手作り地図だ。その地図は東京首都圏がいまどれほど奇妙な文化の中にいるかについて、興味深い事実を教えてくれる。そして同時に、脱地球文明の最大の牽引車の一つ、東京首都圏の文化を、もう一度地球につなぐための工夫も考えさせてくれる。たとえば多摩丘陵を中心にネットワーク型国立公園を配置し、首都圏を地球に繋ぐ構造を作ってしまうなどというのはどうだろう。地球への軟着陸をめざす東京首都圏人間たちにいまどんな想像力が必要なのか、そんな補助線をダシに考えてみよう。

首都圏の緑の回廊
多摩・三浦丘陵ベルト

講師 **岸 由二**（慶応義塾大学教授）

◆プロフィール
社会派ナチュラリスト、現代進化生物学の辛口の批評家として知られ、また地域の住民運動にも家族ぐるみで熱心にかかわる。専門はハゼやカニの行動学・生態学。

◆著書
『いのちあつまれ小網代』、〝岩波ブックレット『ナチュラリスト入門』、春・夏・秋・冬〟他

司会 **環境問題研究会**（河合塾講師）

**7月8日(月) 17時30分～**
**横浜校 3S教室**

現代思想入門

# フロイトという思想

小林敏明　国語科専任講師

夢を見たことのない人はいまい。ちょっとした度忘れや言い間違いをしたことのない人もいまい。だがだれもそんなことに特別な〈意味〉があるなどとは考えたりしないだろう。いや確か「深層心理」とか「無意識」というような言葉を聞いたことがあるぞ、などと思う人ぐらいはあるかもしれないが、それが現代の構造主義やポスト構造主義などと呼ばれる思想とも密接なつながりをもっていることをどれだけの人が知っているのだろうか。まあそのことはとりあえずどうでもいい。それよりもこむずかしい理屈を得意気に振りかざす青臭い哲学青年の姿を見かけなくなって久しい。確かに今や理屈はトレンディではないかもしれないが、青年にどこか物足りなさを覚えるのも近頃である。ぼくの「青い青い」論議に一人でもつきあってくれたらいいなと思っている。

ご聴講のみなさん、私は、あなた方一人ひとりが書物を読んだり、人づてに聞いたりなさって、精神分析についてどれほどのことをすでに知っておられるか、それは存じません。しかし「精神分析学入門」という講義題目をかかげたのですから、あなた方を、精神分析についてはなんの知識ももたず、第一歩からの手引を必要とする方々とみなすことに致します。……フロイト『精神分析入門』より

**6月29日(土)　13:30～　駒場校　N21教室**

91エンリッチ講座⑦